

☆津市立朝陽中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

朝陽中学校区の中には、厳しい生活背景の中で生きている子どもや外国につながる子どもなど、様々な課題を抱えながら暮らしている子どもたちがいます。また、他者からどう見られるかといった不安や悩みがあり、安心して自分を出せずにいるため、自尊感情が低く、将来の展望が持てない子どもの姿もあります。

こうした子どもたちの実態から、地域、家庭、園、学校、各種団体が連携を深め、子どもたちの育ちを支える子ども支援ネットワークを構築していこうと考えました。そして、それは、子どもにとって、自分のことを分かってくれる人が増え自尊感情を高めることにつながり、さらに、自ら活動しようという意識が自ら学ぶ力につながると考え、取組を進めました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 各校・園への支援

保護者や地域住民は、中学校区の園、学校で行われている出会い学習や協働作業に積極的に関わってきました。高齢者の孤独死をなくそうと活動している方が、一人暮らしの高齢者の生活や自分が活動している理由などを話したり、地域の方が米や農作物の作り方を教え、一緒に稲刈りなどの活動を行ったりしました。

子どもから「地域にはこんな素敵なお人があるんだ」という感想があり、地域住民からは「この地域が大好きと思ってもらえるような係わりをしていきたい」という声もありました。

中学校では、生徒の基礎基本の学力定着や学習意欲向上を目指し、進路保障につながる取組として、長期休業中（夏期休業中16日、冬期休業中5日）に学習会を実施しました。生徒の実態に応じて学習内容を工夫し、地域の学習支援ボランティアと教職員で取り組みました。問題を解けずにいた子どもたちが集中して取り組む姿も見られました。



稲刈り活動の様子

(2) 小学校区でのネットワークづくり

地域の方に子どもの様子を伝え、子どもと地域住民、また、地域住民どうしがつながってほしいと考え、各小学校区でのネットワークづくりに取り組みました。地域住民や保護者、自治会、見守り隊、民生児童委員等が、授業を参観したり、講演会や研修会を行ったりして、それぞれの立場で子どもにできることを考える機会になりました。

(3) かわげ人権フェスティバル

今年の人権フェスティバルでは、NPO団体代表や津市社会福祉協議会河芸支部が中心となり、次世代を担う子どもも運営に参加してほしいとの願いから、「子ども実行委員会」をたちあげました。地域の方が各小中学校を回り、子どもたちに「誰もが安心して暮らせるまちを一緒につくろう」と呼びかけました。それに応えて、町内の小学6年生と中学生合わせて27人が参加しました。

一緒に活動した団体や地域の方からは、「地域で自分を知っている（見守ってくれる）人がいることが、子どもにとっても安心して暮らせるまちづくりにつながっていく」といった感想が寄せられました。



河芸人権フェスティバルの様子

子ども実行委員会には、学校でなかなか素直に自分を出せない子どもや友だちとの係わりが苦手な子どもも、参加することができました。子どもたちからは、「一人で子ども実行委員会に参加したけど、中学生が声をかけてくれてうれしかった。来年は自分が中学生として小学生に教えていきたい」等、前向きな感想が寄せられました。

◆実践を振り返って

朝陽中学校区では、学校、家庭、地域が連携することで、地域住民が子どもの様々な面を知る機会となるとともに、子どもが地域住民と知り合う機会ともなりました。少しずつですが、「地域の子は地域で育てる」という意識が広がりつつあります。こうした取組により、子どもの自尊感情が高まっていくと思われま。

今後も、教育的に不利な環境のもとにある子どもやその保護者にも地域の思いや声が届くように、継続的に取り組んでいきたいと考えています。